令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

(1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。

(2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。

(3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1　調 査 日　令和８年４月１４日（火）

2　調査対象　品川区立学校　第２～９学年の全児童・生徒

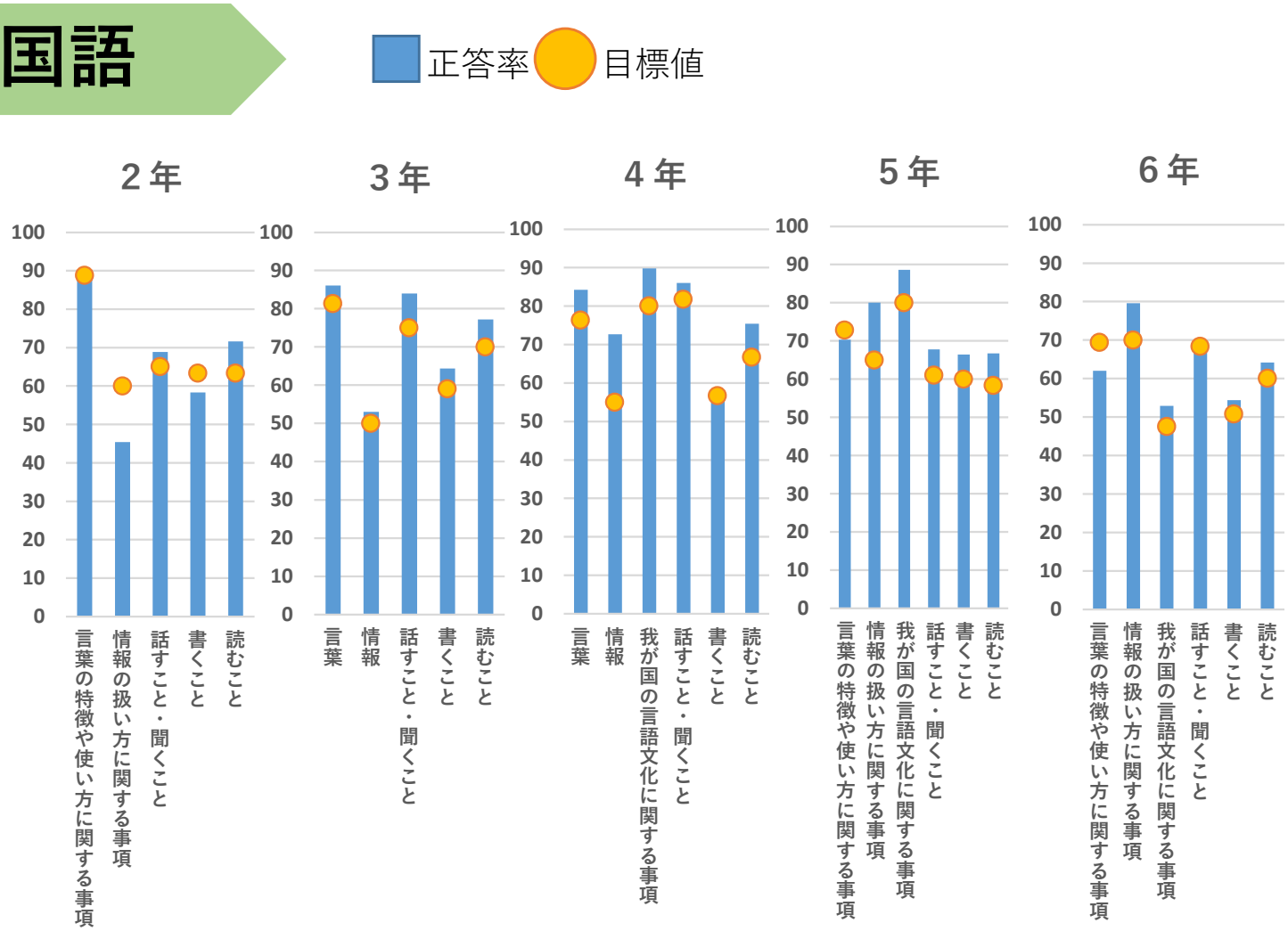
3　調査内容
教科に関する調査
→　調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第２・３学年>　国語、算数
<第４～５学年>　国語、社会、算数、理科
<第　６　学年>　国語、社会、算数、理科、英語
<第７～９学年>　国語、社会、数学、理科、英語

鈴ケ森小学校

令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取り組み

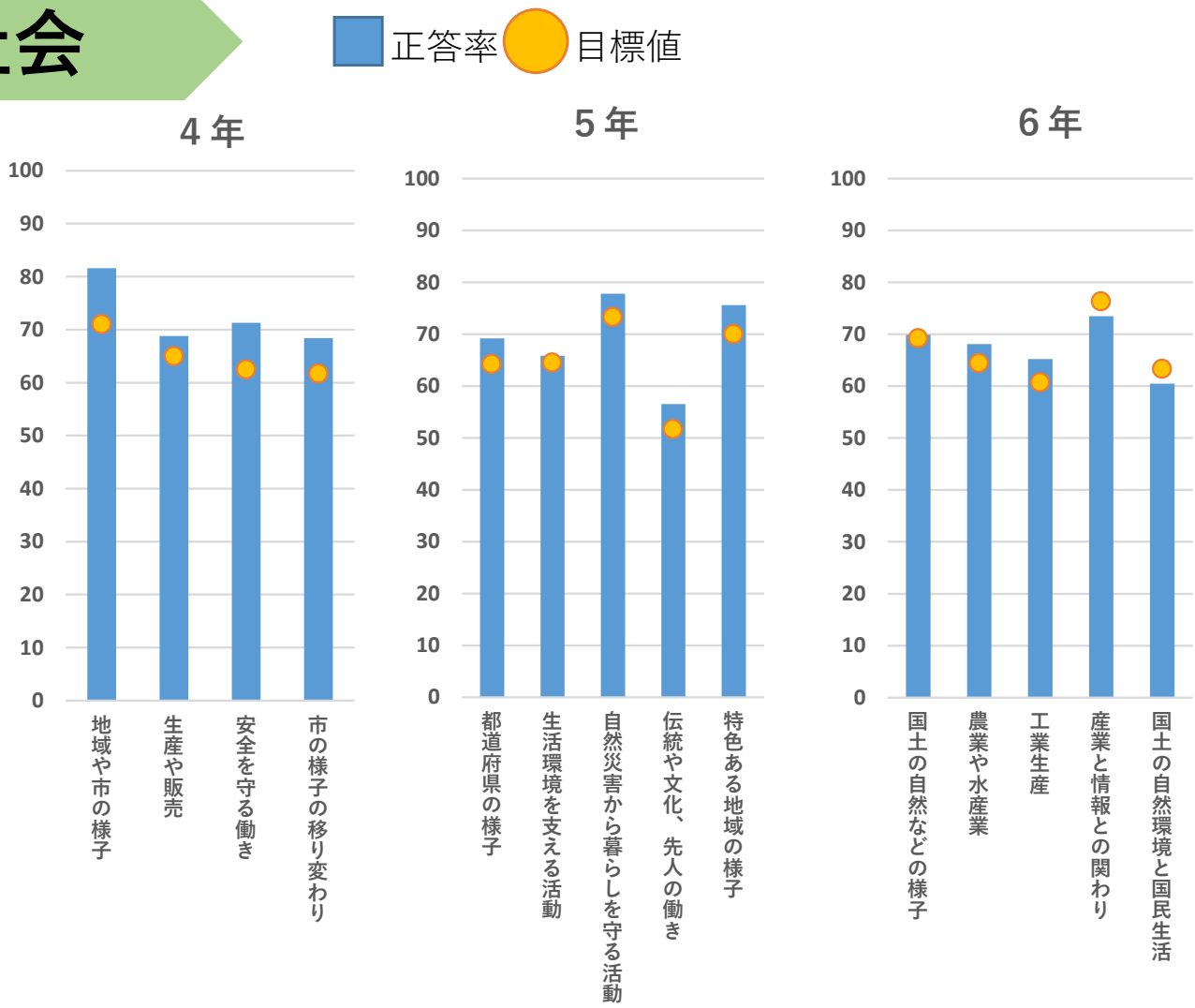
国語



	具体的な課題と要因	課題解決のための方策
２年	・文章を正確に読み取ること。 ・伝えたいことを明確にして文章を書くこと。	・問いの内容を確認し、一文ずつ丁寧に読み取る習慣を育てる。 ・書く前に伝えたいことや考えを整理してから、文章を書く機会を増やす。
３年	・漢字を正確に書いたり読んだりすること。 ・内容のまとまりが分かるように文章を書くこと。	・習った漢字は短期・中期・長期で復習し、定着を図る。 ・段落を意識した音読や、読書の時間を日常的に実施する。
４年	・２つ以上のものを比べて自分の意見を書き表すこと。 ・自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書くこと。	・文章を読み取らせる授業に留まらず、叙述に対する自分の考えを書き表す機会を増やす。 ・自分の意見と友達の意見を比べ、新たな気付きや考えが深まったことをノートに記述し、振り返らせるようにする。
５年	・連用修飾語を理解すること。 ・既習の漢字を正しく書いたり文章の中で使ったりすること。 ・説明的な文章の要約をすること。	・文章読解や作文の際に、文節に区切り役割を確認する時間を設ける。 ・既習の漢字を使ったり、読んだりする機会を増やすために、隙間の時間で復習に取り組む。 ・文章を要約する場面を設定し、書くことに慣れさせる。
６年	・文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に活用すること。 ・第５学年に配当されている漢字を正しく書くこと。	・習った漢字は漢字で書くことの意識付けを常時行う。 ・漢字の成り立ちや意味と関連付けて覚えられるよう支援する。

令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取り組み

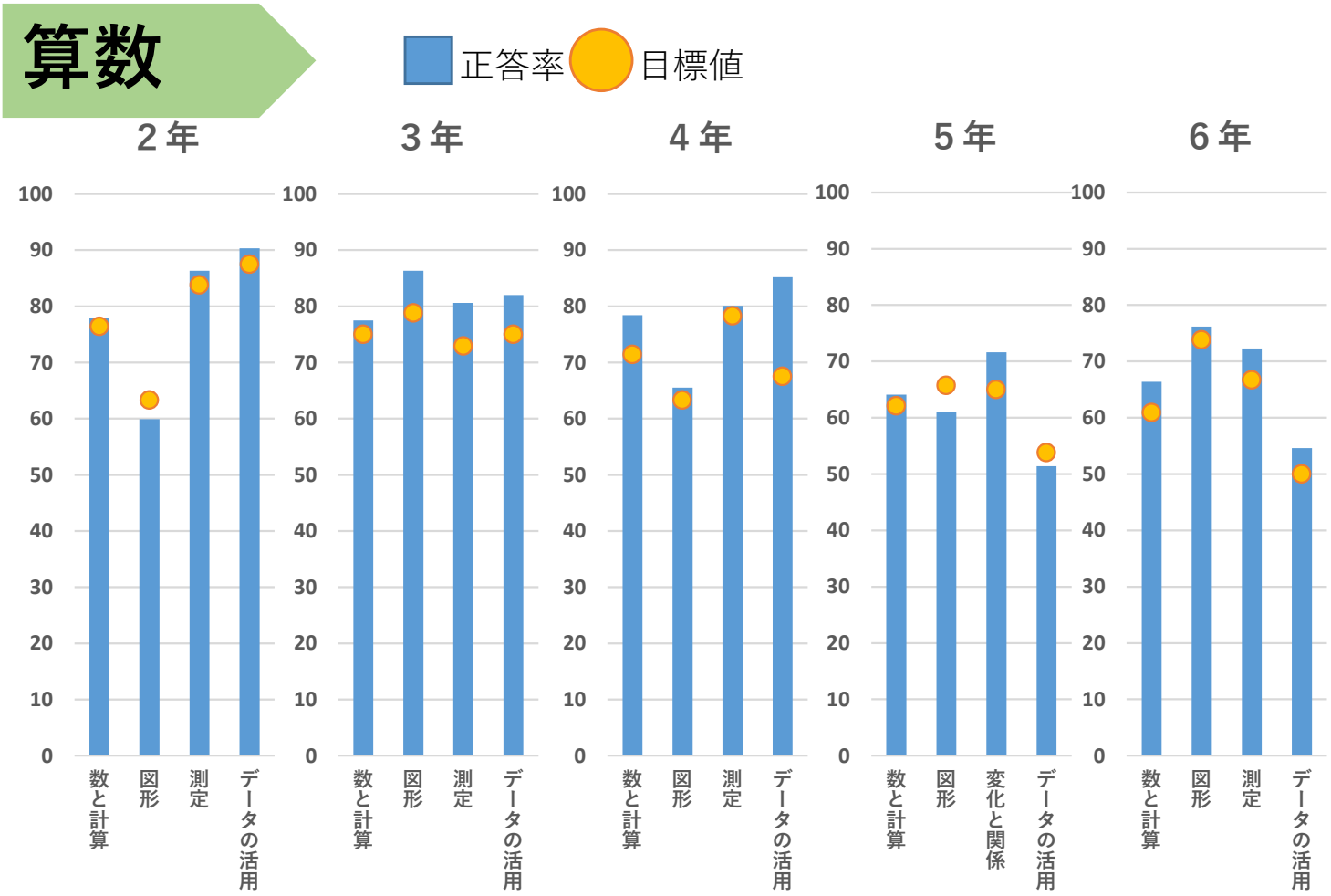
社会



	具体的な課題と要因	課題解決のための方策
2年		
3年		
4年	・市の様子の移り変わりを理解すること。 ・資料を基に考え、表現すること。	・区や市、都の様子について学習する際に既習事項を結び付けて考えさせる。 ・授業中に、資料を基に考える機会を設け、自分の考えを表現できるよう、グループ等で共有する時間をとる。
5年	・水の供給に関する仕事について理解すること。 ・ごみの出し方のルールについて、資料を読み取ること。	・前年度の学習を振り返る時間を設定する。 ・資料から正確に情報を読み取ることを、繰り返し実践、指導する。
6年	・さまざまなメディアの特徴について理解すること。 ・森林の働きについて、資料をもとに判断すること。	・前年度の学習を振り返る時間を設定する。 ・資料から正確に情報を読み取ることを、繰り返し実践、指導する。

令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取り組み

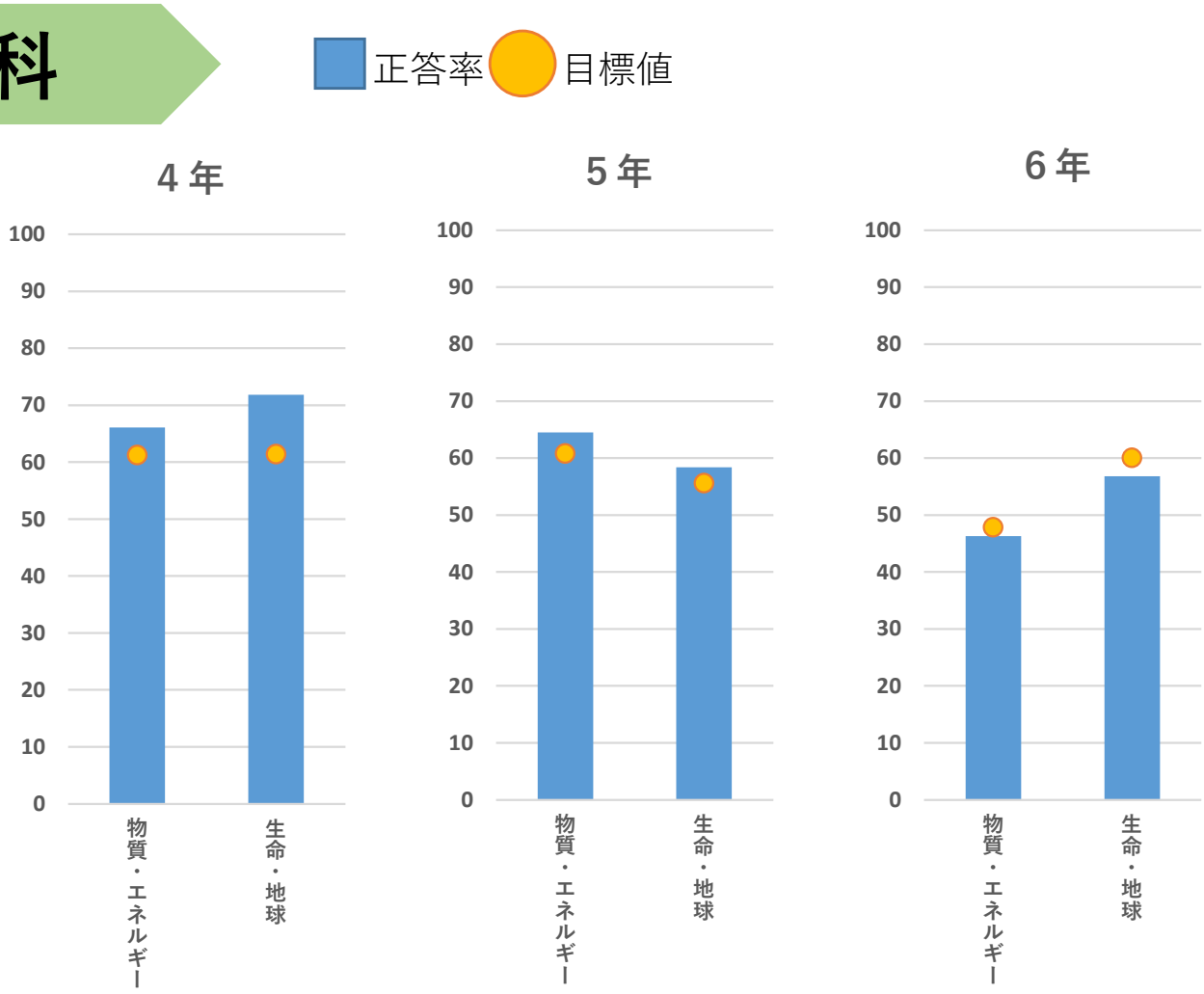
算数



	具体的な課題と要因	課題解決のための方策
２年	・形のイメージをつかむこと。 ・繰り下がりのあるひき算。	・日常的に形を意識させ、授業では具体物を用いて形を手で触るなどの経験を増やす。 ・計算カードを用いた練習に繰り返し取り組む。
３年	・１００００までの数を正確に捉え、計算すること。 ・加法の結合法則を用いた計算を、正確にすること。	・位の確認を、日常的な授業で声に出して行う。 ・繰り上がり繰り下がりの計算などの途中式を丁寧に書かせる指導を継続する。
４年	・計算ミスをせずに、素早く正確に計算すること。 ・作図では、ずれが出ないように正しく用具を使えるようになること。	・計算問題の学習については、九九やかけ算の筆算の仕方も復習しながら学習に取り組ませる。また、わり算の筆算では「たてる、かける、ひく、おろす」を確認しながら授業を進めていく。 ・図形の学習については、分度器やコンパスなどの正しい使い方を確認しながら作図を行わせる。
５年	・およその面積を推測すること。 ・折れ線グラフや表などの資料を正しく読み取ること。 ・平行四辺形の作図をすること。	・面積の学習の際、今まで出てきた面積の求め方を復習する。 ・資料から分かることを言語化することを繰り返し指導する。 ・三角定規や分度器の性質について折に触れて指導し、作図の復習場面も設けていく。
６年	・小数の計算方法（特に割り算）を十分に理解し、活用すること。 ・合同な図形を作図すること。 ・図や表からデータを適切に読み取り、割合を求める活用すること。	・小数の計算方法を確認し、活用できるようにする。 ・合同の意味を確認し、作図の仕方を復習する。 ・与えられた情報から基準量、比較量、割合を求める計算練習を行う。 ・図や表を適切に読み取り活用するために、問題の量を増やすようにする

令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取り組み

理科

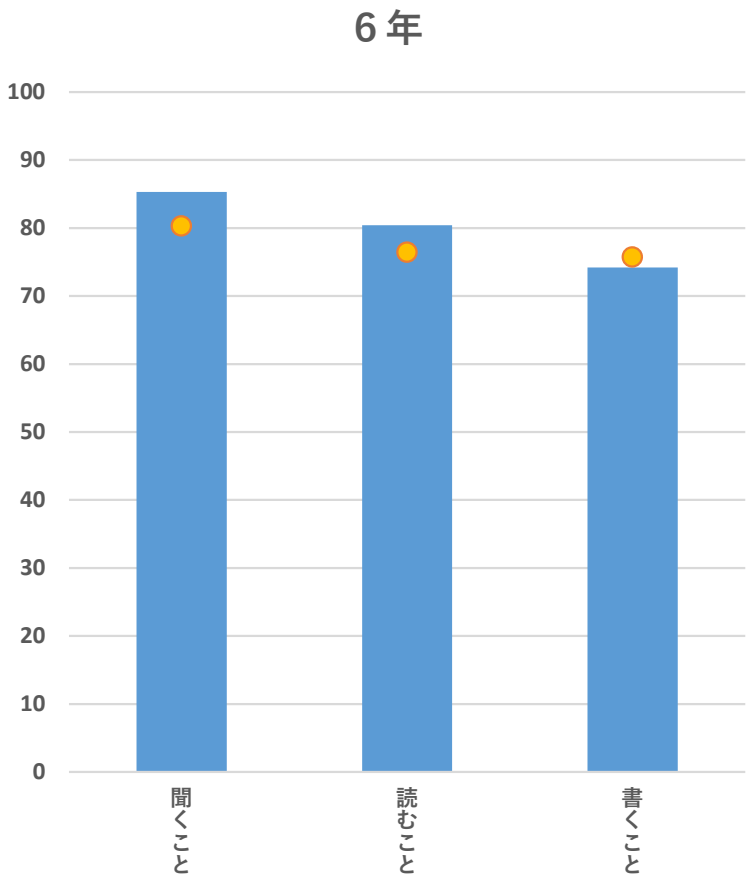


	具体的な課題と要因	課題解決のための方策
２年		
３年		
４年	・「風やゴムのはたらき」について理解すること。 ・「じしゃくのせいしつ」について科学的事象の起こる理由を説明すること。	・系統性のある学習において、既習事項と結び付けながら学習を進める。 ・考察の仕方を示し、実験を単なる結果の確認ではなく、なぜそ　の結果に至ったのか考えさせるようにする。
５年	・方位磁針の使い方を正しく身に付けること。 ・空気中の水蒸気が水になることを結露ということを理解すること。	・天気の変化の学習の際には、観察時に方位磁針を実際に使うことで復習する。 ・身近な生活の中での現象と結び付けて考えさせる。また、新しい用語は、授業の中で繰り返し使うことで理解できるようにする。
６年	・植物の発芽と成長の理解。 ・受粉への理解。 ・顕微鏡の正しい使い方。 ・実験結果に基づく考察を順序だててまとめること。	・植物の単元では、以前の学習内容を復習として取り扱う。 ・実験方法の手順を資料や実際に見せることで、理解して実験に臨めるようにする。 ・仮説を振り返り、結果から分かることをまとめていく。

令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取り組み

英語





	具体的な課題と要因	課題解決のための方策
２年		
３年		
４年		
５年		
６年	・音声を聞き、小文字を正しく書くこと。 ・地図を見ながら、目的地までの道順を正しく書くこと。	・発音しながら書かせる。 ・記述の反復練習を行う。